

回答書

日本保守党代表 百田尚樹 殿

令和7年 9 月 30 日
衆議院議員 河村たかし

令和7年9月19日 17時より、愛知県名古屋市にて、日本保守党共同代表として活動していた河村たかし、同党代表で参議院議員の百田尚樹氏、同党事務総長の有本香氏との会談が行われました。
会談は有本氏からの呼びかけによるものです。

その席上で「決定事項」として、

① 河村の共同代表からの「解任」

② 河村が代表を務める、減税日本と日本保守党との「特別友党関係の解消」が通告されました。

また

③ 河村に対して、今後も継続して「日本保守党所属」の議員として国会活動を行うという要請がなされました。

回答

① について

共同代表の「解任」という決定事項は承諾できません。

② について

減税日本と日本保守党との「特別友党関係の解消」はすでに破綻しております。信頼関係の再構築は不可能です。

③ について

今後も国会議員として活動します。日本保守党の所属議員として活動するかは、私自身の判断ですので一方的な通告にはお答えしません。

（減税日本との特別友党関係の解消が「決定事項」として通告されたことにより、協議する時間を有したため、本日の回答となりました）

以下、①、②、③について私の見解、意見について付記します。

① について

私は有本氏に「執行部は誰を指すのか」と尋ねています。その際

「代表の百田氏、共同代表の私、事務総長の有本だ」と回答を得ています。
共同代表の「解任」という党にとって極めて重要事項が、執行部での事前の相談、
会議もなく一方的に通告されることは民主主義に反することです。

また、令和7年4月22日午後に起こったいわゆる「ペットボトル事件」という
暴行事件。国政政党の代表であり現在は参議院議員でもある百田氏は
ペットボトルを投げつけた際「俺が殴ったら死ぬぞ」とまで、言い放ちました。
前代未聞の暴行・脅迫事件は報道や百田氏のインターネット上の発言でも
明らかです。

今もって、事実関係も明確に認めず、謝罪もありません。

暴行をふるった百田氏、見て見ぬふりをしている有本氏こそが「解任」
されるべきです。

議員会館という密室での暴行事件を隠ぺいして、私に「解任」を決定事項として通告する
ことは自民党の裏金事件と同様に密室政治そのものでどうい承諾、看過できないもの
です。

② について

私はこれまで、日本保守党の党勢拡大に努力をしてまいりました。

私が代表を務める、減税日本に所属する地方議員、支援者らにも同様の要請をして
きました。事実、令和7年7月の参議院選挙でも

日本保守党の全国比例の得票率は全国 5.04%、愛知県 7.59%、名古屋市 9.65%
であった。

令和6年の衆議院選挙では、全国で 2.10%であるのに対し、愛知県は 5.08%、
名古屋市では 7.88%という数字だった。

減税日本が、日本保守党の党勢拡大に大きく貢献しているのは数字上でも、明白です。

前記の会談では、百田氏と有本氏から明確な根拠が提示されることもなく、

「特別友党関係の解消」という一方的な通告は許しがたく、
信頼関係は完全に崩壊しました。

また、令和7年7月11日、愛知県名古屋市での参議院選挙、街頭演説における
百田氏の

「投票所に行くと2枚の投票用紙がありますが、1枚目（選挙区）の投票用紙は
破って捨ててください」

という発言が、公職選挙法にも触れるとの報道もあり、問題視されました。

田中氏は減税日本が公認し、日本保守党も推薦しております。

百田氏の発言は、減税日本やその支援者、田中克和氏をターゲットとしていることは誰の目にも明らかです。田中氏や減税日本と日本保守党の支援者、有権者を愚弄するものです。

減税日本と日本保守党の信頼関係が再構築されることは不可能であり、すでに破綻しております。

さらに付け加えるなら、共同代表の私と代表の百田氏は、日本保守党の党運営の手法、国政政党としてのあり方が相反しております。私は執行部でありながら、党からは党員数、党員からの収入など公開は一度もありません。党の政治資金収支報告書の作成や、議員数に応じて交付される政党交付金、立法事務費の使途や公開も、事前に相談ありません。これらは自民党のような「政治とカネ」の問題に発展しかねません。党員、支持者のためにも、党の会計は執行部で協議し、透明度を高めるべきです。ただし、

「保守政治の理念と政策」を掲げて、ともに選挙を戦い、有権者から支持を得て国政政党になった実績も残しています。そのような背景、有権者からいただいた1票、支持などを鑑みると日本保守党は解党もしくは解党の上、分党をすべきだと意見を付記します。

③ について

私は、令和6年10月の衆議院選挙で、愛知1区から当選を果たしています。国会議員としての職務を果たすと同時に、所属政党は、私自身が判断します。

竹上裕子議員の秘書についての指摘

また、令和7年9月19日の会談で減税日本にも所属しております、衆議院議員の竹上裕子氏の公設秘書について

「お姉さんを公設秘書に起用して、秘書給与を不当に詐取しようとした」

「私（河村たかし）が竹上氏を名古屋の事務所に呼びつけ、撤回させた」という趣旨の発言が百田氏、有本氏からありました。それについて私は詳細な記憶がなかったため、その場で

「調べてみる」

と述べて、引き取りました。

その点についての回答を付記します。

令和6年10月の衆議院選挙、東海ブロック比例で当選した竹上氏に前記会談の後に改めて事情を聞くと

「有本氏から公設秘書3人を出してね」

と申し渡されました。その際、竹上氏はすぐに心当たりがなかったため地元在住の「息子」をあげた。

その後、有本氏から親族の公設秘書起用の問題点について、指摘を受けました。

私、河村たかしも「親族が公設秘書になるのは問題」との内容を有本氏から聞いた記憶があり、名古屋の秘書を通じて懸念を竹上氏に伝えました。

竹上氏も「提案の一つでとっさに出たことであり、積極的にとの考えはなかった」として、息子を公設秘書には起用しておりません。

また、私が竹上氏をこの件で、名古屋に呼びつけた場面はありません。

以上が竹上氏に加えて、私の秘書らにも確認した内容です。